

令和 3 年 8 月 4 日

多治見市長 古川 雅典 様

多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会

会長 水野 豊

多治見市立(仮称)笠原義務教育学校整備基本構想(案)の提出について

当研究会は、笠原校区におけるこれまでの一貫教育の成果と実情を踏まえ、義務教育学校の設置に関する基本方針及び必要事項について、令和 2 年 9 月から調査及び研究を重ねてきました。

調査及び研究の方法については、事務局から提出された資料を基に、一般的な事柄のみに留まらず、笠原校区の現状に落とし込みながら、自由な意見交換にて進めました。

令和 2 年 12 月には、笠原校区における一貫教育の有効性を確認し、施設一体型義務教育学校の建設推進を表明(中間報告)したところです。

その後も調査及び研究を続け、この度、建築設計の指針として『多治見市立(仮称)笠原義務教育学校整備基本構想(案)』を取りまとめましたので、提出いたします。

なお、学校建設を現状と照らし合わせて検討していく中で、小・中学校が一つになることで通学者数が増加する等、付近の通学路や交通環境の改善を求める意見が多く出ています。

つきましては、学校建設に関連する通学児童生徒の交通安全対策に係る当研究会の要望として、下記の事項について申し添えます。

記

1. 笠原小学校進入路(市道 861107 線)の拡幅について

小学校進入路は、狭隘な急カーブ区間がある。歩道の確保や車両のすれ違いが円滑になるよう、道路の拡幅整備を要望する。

2. 歩道橋交差点の改良について

上記市道の北端に設置されている歩道橋は老朽化が進んでいるほか、設置位置から歩行者の支障となっている。歩道の確保及び安全な車道横断ができるよう、交差点の改良整備を要望する。

以上

